

総 評

審査委員長 大坪 明

この大阪府の公共建築設計コンクールは、府内の工業高校や専門学校等で建築を勉強している若者の皆様に、設計したものが実現するチャンスを与える実践教育の場として開催されている。全国でも貴重な取り組みで、各方面のご協力を得ながら実施されており、今回で22回目を迎える。今回は247名から221点の応募があり、昨年度より25%ほど増えたことを関係者一同が喜んでいるところである。

今回は集合住宅団地の中の集会所というテーマが与えられた。応募作品を見ていると、評価の視点を明確にしたことにより、極めて現実的な取り組みがなされていることが伺える。また、先生方のご指導のよろしきを得て、応募者各位が与えられたテーマに真摯に取り組んだ姿勢が伺われ、極めて好感を持って個々の作品を拝見した。

応募作品は、どれも優れた点があり、なかなか甲乙をつけ難かったが、中でも建物が使われる状況や立地の特性をより深く推し量った結果を計画案に落とし込んだ作品が受賞作となっている。更に、設定された条件とは多少異なるが、設計者の積極的な提案がより快適で新しい使い方を誘導するであろうと認められる作品も受賞作として取り上げた。これは、単に提示条件を鵜呑みにするだけでなく、独自の新たな提案でより快適な環境を提供するということが、建築設計本来の役割でもあるからだ。

ただ残念なことは、評価の視点を明確にしたからだろうか、それらから逸脱するかもしれないけれど、デザインとしては挑戦的で優れていると言えるような作品が少し影を潜めた点である。「奨励賞」に狙いを定めた挑戦的な作品も期待しているので、ふるって挑戦して下さいを願っている。

山崎智紀 作品（グランプリ）

土間としての利用が想定される、エントランス・ホール兼ふれあいリビング。この土間を中心に、集会所は内部の諸室を連結し、同時に外部の3方向に開く構成をなしている。集会所の開閉が、その利用だけでなく、周辺環境へと与える影響は大きい。外部空間への配慮も行き届いた、この土間のふれあいリビングは、数ある集会所に新しい使い方、「開き方」を導く可能性があるものとして高く評価された。

平井耀介 作品（準グランプリ）

団地集会所は、団地居住者や周囲の町の人々のコミュニティの核となるものである。集会所が本質的に求められる場としての「つながりと記憶」への誘い、本案は、そうした集会所の本質に立ち向かった作品である。本作品では、多様で快適な外部空間の計画は周辺環境と連続し、緻密な平面計画と相まって、人々が集う「つながりと記憶」の場となることが、卓抜した図面表現を持って示されている。

粟野瑞基 作品（優秀作品賞）

北側の広場利用、南側からのアプローチ、東側への集会所利用の様子の滲み出しと敷地周辺での利用行動に則した機能配置と東立面を中心に採用されたガラス窓による壁面構成は明快である。集会室の分割利用時に配慮した湯沸室、収納スペースの分割配置もよく考えられている。湯沸室上部の勾配屋根端部の雨水処理やガラス面のコストの点では課題も見受けられる。

宿野綺秀 作品（優秀作品賞）

円形の象徴的な形。この形は、近くのお古墳の円形や団地の中心性から導きだされている。各室は円周の中にきれいに収まっている。円弧と室の間隙はテラスとされ、各室からのアプローチも明快に出来ていてきれいなプランである。集会室は北側に面しているが屋根からボリュームを突き出し、トップサイドからの光の取り入れ方も優れている。円の中心にある中庭の上からの光が、ゆるやかに室内に広がるのも想像出来る。一つ残念なのは、集会室からの使い勝手を重視したのだろうか、集会室の倉庫が広場との関係を遮断していることである。

藤野巧巳 作品（佳作）

光溢れる内部空間を創出したことにより、集会所はそのアクティビティを、街を歩き交う人々に表し人々のコミュニティ形成の核となっていく。コンパクトな平面計画とともに断面計画を工夫した丁寧な計画がなされた作品である。

田中伸明 作品（佳作）

設計要件に忠実に対応すると共に明晰な平面構成がとられた本作品は、その構成の明確さを外観にも表現している。集会所での様々なシーンでの利用への配慮もなされ、プレゼンテーションの密度も高い、好感の持てる作品である。

榎本貴之 作品（佳作）

北側の広場と一体となった集会室及び湯沸室の配置、開口部の提案、天窓による北側集会室への採光処理の提案は明快である。東側からの視線を考慮すると東側立面の意匠の提案には課題が残されている。

松本一生 作品（佳作）

北と東にオープンスペースをとり、広場とのつながりと街とのつながりを重視した案。とりわけ、東側のパーゴラ風のテラスが象徴的である。ここに、外部から人が集まり、交流が生まれる。集会室のサッシを開くと、内と外が繋がる。色々な使い方を想定して広さやデザインを決めるともっと現実味が出てくると思われる。

末永かつら 作品（奨励賞）

あおぞらリビングを中心とした集会室、湯沸室、和室の配置と集会所の多様な日常利用と広場での非日常利用も考慮され、親しみやすい提案である。さらに、雨天や冬季等、天候を考慮した工夫も求められる。

菊川勇士・谷川勇弥 作品（奨励賞）

シャープな外観が特徴的。南側の高窓から取り入れた光を北と東にスルーさせ、光に導かれて人が引込まれるというアイデアを形にしている。北側には広場でくつろぐ人や子供が居て、東側には街を歩く人や団地がある。北と東から出てくる光に異なった表情を持たせ、人々が立ち寄りたくなるような強いメッセージを発しているのはよく考えられている。